教育振興運動推進事業

自治体名

岩手県紫波町

学校数

小学校　11校　中学校　3校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

地区公民館が中心となって、被災地から移住した住民との交流会を開いたり、被災地へ手作り味噌を寄贈したりするなどの活動をしている。（震災による被害：軽傷1、建物被害多数（倒壊2、天井落下2等）、道路地割れ2等）

＜取組名＞ 親子講演会「“笑顔のキャッチボール”を～世界中の優しさに包まれて～」

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
		○		水分地区教育振興運動実践協議会
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
			1	紫波町水分小学校

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
	○				（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○	○			（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

＜親子講演会＞

実施日時　平成 25 年11月 2 日（土）　14：00～15：00

実施場所　紫波町立水分小学校　体育館

参 加 者　紫波町立水分小学校　児童・保護者　165名

演　　題　“笑顔のキャッチボール”を　～世界中の優しさに包まれて～

講　　師　花巻市立矢沢中学校　校長　藤舘　茂　氏

学習内容　親子で講演を聞くことを通して、親子のふれあいを深めるとともに、教養を高めることを目的として実施した。今年度は復興教育と関連させ、釜石市立唐丹中学校の校長として、震災を身をもって体験した藤舘氏に講演していただき学習することとした。

体験を通して語られる内容には迫力があり、児童、保護者はときに涙を流しながら、集中して聞き入った。時が流れても、東日本大震災の記憶を決して風化させることなく、人として何を大事にして生きて行くべきか考えさせられた1時間であった。

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

・　岩手県内陸部に位置する当町では、東日本大震災による津波等の大規模災害は発生しなかったが、被災地の復興に向け、地区公民館等を中心に各種支援活動を継続して展開してきた。

・　平成25年8月9日（金）、秋田県から岩手県の中央部はこれまでに経験したことのないような大雨に襲われ、各地で大規模な浸水被害や土砂崩れなどが発生した。当町では、1時間当たりの観測雨量が観測史上最大の 71 ミリを記録。短時間に大量の雨が降ったことにより、多くの河川や水路で水が溢れ出し、約300世帯の住家で浸水被害が発生した。この他、土砂崩れや道路の崩壊、農地災害、倒木などが多数発生したことから、現在も復旧に向けて調査や工事が続けられている状況である。

◇住民等からの要望・必要な取組

・　観測史上最大の集中豪雨に襲われ、町民の自然災害に対する不安は一段と高まっている。

・　地域全体で防災に対する意識を高めるとともに、地域コミュニティの構築に取り組んでいく必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・　「学校・家庭・地域が連携して子どもの生きる力を育む」ことを目標に、紫波町教育振興運動推進委員会が町全域の教育振興運動を推進している。

・　目標の具現化に向け、水分地区教育振興運動実践協議会が講演会を企画し、児童及び保護者に参加を呼びかけた。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・　岩手の復興・発展を担う「ひとづくり」を進めるとともに、地域全体で防災に対する意識を高めるため、東日本大震災を実際に体験した講演講師に、被災地での体験を伝えていただいた。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・　多くの地域住民が一堂に会し、震災からの復興・発展について考える機会を設定することができた。

・　集中豪雨の体験も踏まえ、自然災害の恐ろしさについて改めて考えるとともに、今後の地域防災に対する意識を高めることができた。

・　多くの地域住民や関係団体の連携を促進することができた。

◇課題や今後の展望

・　東日本大震災の記憶を風化させないとともに、いつどこで起こるか分からない自然災害へ備えるため、復興や防災に関する取組を継続して実施する必要がある。今後も、学校・家庭・地域が連携し、「みんなでまなび、みんなでつながる紫波の教振」をスローガンに、児童生徒の健全育成に取り組んでいく予定である。